



かたくり



令和3年度
第51号

学校教育目標 夢ふくらませ 心かがやく

2022.2.16

令和3年度（2021年度）の取り組みをふり返って

- 新型コロナウイルスにかかわる学校生活への影響について
 - マスクの着用や手洗いの励行、家庭でのていねいな体調観察が慣例化。
 - 密にならないように。給食は、学年ごとに同じ方向を向いて黙食。
 - コロナに起因すると思われる児童の心理的な不安はほぼ見られていない。
 - 第5波により、行事の大きな日程変更があったが、ほぼ予定通りできている。
 - 「修学旅行（6年）」→6月から10月へ。行き先は、県外を避けて県内で。
 - 「くりっこフェスタ」→9月から11月へ。密を避けて昨年度と同じ形態で。
 - 「スポーツフェスタ」→10月（規模を縮小し、校内記録会として実施）
 - 第6波により2月の行事が中止または延期しているが、現在のところ、ご家庭でのご配慮の成果もあって、子どもたちは元気に活動することができている。

☆学校教育目標「夢ふくらませ 心かがやく」について

【心豊かな子】

- ◎ 思いやる・・・下級生と遊ぶ上級生。友だちの頑張りを応援する姿が見られる。
「なかよしスキルタイム」もよいきっかけに。
- 仲良くする・・・男女の分け隔てなく諸活動ができている。
- ◎ 協力する・・・清掃・給食準備、委員会活動、授業等、望ましい姿が見られる。
- ◎ ふるさとを愛する・・・地域めぐり「くりっこ探検隊」や体験学習等から、地域を身近に感じることができている。

※「思いやる」について

- ・・・新型コロナへの感染で給食センターが2週間お休みになった際、お家の方々の弁当作りに感謝の気持ちを示そうと、5年生女子の有志が「ありがとうカード」を企画。全校に呼びかけてカードを書き、感謝を伝えることができた。
- ・・・地域のご老人から、「朝、登校時に高学年女子がゴミ出しを手伝って、ごみ集積所まで一緒に持って行ってくれた」との感謝の電話連絡があった。

※「協力する」「目標をもって努力する」について

- ・・・「くりっこフェスタ」「スポーツフェスタ」「冬休み集会」「せんぼく校との交流会」などで、学級またはグループで協力して活動することが、行事の成功に結びついている。子どもたちの満足度も高く、次の活動への意欲やよりよい友だち関係の構築にもつながっている。

【たくましい子】

- ◎ 挑戦する・・・くりっこチャレンジでの頑張り。昨年同期の3倍の成功数。
- ねばり強くがんばる・・・家庭学習の継続。くりっこチャレンジ。
- ◎ 運動に親しむ・・・休み時間の遊び。パワーアップタイムの充実。
- 自分を大切にする・・・夢のスケッチブックへの記述に変容が見られる。

【自らを高める子】

- 自信をもつ・・・くりっこチャレンジ。委員会活動等体験活動。
- ◎ 目標に向かって努力する・・・児童会テーマ・学級目標に向かって。みんなで。
- 学びを深める・・・くりっこ探検隊。SDGs。ICTの活用。
- 問いを発する・・・日常の授業での教師の仕掛け等で、さらに伸ばしたい。

※くりっこチャレンジについて【実施状況（2／16現在）】

- ・これまで、のべ737回のチャレンジ成功。昨年同期の約3倍増。
- ・くりっこチャレンジマスター（5回以上の成功）も、全校で70人の該当者。完成した「缶バッジ」を受け取り、さらに意欲的に頑張っている。
- ・前期は、5・6年生の成功者が多かったが、現在は、全校まんべんなくチャレンジをしている。1年生も積極的に取り組むことができている。
- ☆くりっこチャレンジを通して、友だちの頑張りを認める場面が増えている。友だちから認められて、自信をつけていく子どもが増えている。

※ICTの活用について

- ・一人一台配布されているタブレットPCを使っている授業が増えてきている。子どもたちの学習に有効に働くという面が見えてきているので、今後も積極的に活用していきたい。
- ・無欠席……90日／177日 ほぼ2日に1日は無欠席→ご家庭の協力に感謝
- ・いじめ報告件数……発見や報告されたものが2件。いずれも指導後、経過観察中。
※発見や報告されていないものがないとは言いきれない。今後も保護者の皆様からの協力も得て、情報の収集に努めたい。

授業改善について

○実践重点事項

※児童主体の学びにしていくことが大前提。

【読み解く学びの展開を意識する】→☆今年度のキーワード「読み解く」

【一人一人を見取る、支援する】

【ふり返りを充実させる】

- 教師自身が、児童に気付かせたり、思考をつないであげたり、深めたりする役にまわる授業スタイルが見られるようになってきた。
- その結果、児童が主体的に活動する授業になりつつある。更なる推進を図りたい。
- ▽子どもたちの発言を多くするために工夫することや教師の発話量を減らすことは、意識されるようになってきている。すぐには変化は見られないかもしれないが、地道に継続していくことで、子どもたちが主体的になっていることが実感できるはずである。今後も、教師は児童に気が付かせたり思考をつないだり深めたりする役にまわることを自覚し、児童の主体性を引き出していく必要がある。

地域学校協働活動について

- 昨年度の2度の熟議をふまえ、実行委員会（委員11名。うち4名を推進員として委嘱）を設立。4度の実行委員会を経て、6月14日～18日まで「地域めぐり『くりっこ探検隊』」を実施。
- 「くりっこ探検隊」は天候にも恵まれ、また、14名の地域案内人と保護者の参加により、これまでになかった貴重な体験、学習を実施することができた。また、地域の方々からも好意的に受け入れていただいた。
- △活動後、さらに追究活動を行い、その後、地域案内人や実行委員等の方々を招いて発表会を実施予定であったが、コロナ第5波の影響もあり、実際に発表できたのが、3年（くりっこフェスタでの紙芝居での発表）と6年（12月のPTA時に発表）のみに終わってしまったのが、今後の反省材料。
- ※来年度は、中学校とも連携を図り、コミュニティスクール（CS）的な活動にしていく予定。市教委からの協力も得て早々に動き出したい。
- ※コロナウィルス感染防止のこともあり、地域や家庭の方々にお力を借りることを躊躇してしまうところもあった。次年度は、今年度以上に、地域や家庭の方々に授業に入っていたいただきたいと考えている。